

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1296700014		
法人名	有限会社 かつみ		
事業所名	グループホーム 時の村14号館		
所在地	千葉県長生郡睦沢町川島757-3		
自己評価作成日	令和7年2月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.homes.co.jp/facility/basic/f=44886/">http://kaigo.homes.co.jp/facility/basic/f=44886/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生		
所在地	千葉県習志野市東習志野3-11-15		
訪問調査日	令和7年2月17日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

地域のイベントや、施設内でのイベント開催、ボランティア様の参加のレクリエーション、花見・外散歩・イベント食作り、これからもご利用者様と地域の行事や施設開催の行事を楽しんでいただけるよう取り組んでいきます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

本事業所は理念を事務室やフロアーに掲示し職員間での徹底した共有を行っており、特に外国人職員に対しては身体拘束の事例を交えて時間をかけて説明を行っている。利用者の食事の楽しみを提供するため、寿司や釜めしの出前を実施し、毎月行事食として多彩なメニューを提供している。また、利用者の自主性を尊重し、好きな活動を行える環境作りを推進している。地域との交流にも積極的に取り組んでおり、町の農林産業まつりや地区の祭りに参加し、地域住民との交流を深めている。散歩時には地域の住民と犬と共に歩き、和やかな交流を促進している。また、家族からの希望に応じて歩行支援を行い、室内での活動機会を提供している。利用者の生活を豊かにするため、自宅帰宅や役割を持った食材準備など、個別のニーズに応じたサービスを提供している。防災訓練や日常的なプライバシー保護の取り組みは充実しており、トイレ誘導や着替え時の配慮も含め、利用者の尊重と安全を最優先に考えている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	御家族、ご利用者様の意向を取り入れながら尊厳を守り、自立支援出来るケアを心掛けています。また身体拘束などは行わないよう、職員会議等で周知しています。	理念を事務室やフロアに掲示し職員間での共有を図っている。特に外国人職員には時間をかけて説明し身体拘束の事例を交えて理解を深めている。利用者の希望に応じて寿司や釜めしの出前を行い、食の楽しさを提供している。また、利用者の自主性を尊重し各自が好きな活動を行える環境を整えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議などで、睦沢町職員様や川島地区区長、民生委員の方々より意見を頂いています。	町の農林産業まつりに参加し地域との交流を図っている。町職員からは車両貸出のアドバイスを受け、移動手段の確保に役立っている。地区の祭りでは子供神輿が訪れ利用者も地域の賑わいを感じている。散歩時には地域住民が犬と共に同行し、和やかな交流が生まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の民生委員、同じ班内の方が施設見学されました。施設ではインフルエンザ等の感染リスクのある時以外は施設見学が可能です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には町職員、区長、民生委員、ご家族等に行事の参加や外出の支援など報告しています。本年度は外出の機会が多くありましたが、職員、施設車の確保の関してご意見を頂きました。	運営推進会議は年6回開催し、施設概要や利用者状況、活動報告等をした後意見交換を行っている。区長からは町の行事参加の減少理由について意見があり、外出支援のボランティア活用の提案もあった。社会福祉協議会からは人員や車両の貸し出しについて助言を受けた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者様とはその都度相談等させてもらい、入居者様の情報や行事等の開催、ボランティアさまの参加に関しても情報をいただいています。	生活保護受給者が2名おり、毎月福祉課へ医療券を受け取りに行く際に情報交換を行っている。地域包括とは空き室情報の共有を行い、利用者紹介のため施設見学の要望も受けている。町からはボランティアとして歌やハーモニカの演奏者が紹介され、利用者の生活に彩りを与える機会となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修・委員会の開催は各施設でおこない、職員間で話し合いを持ち、その都度ケアが適切かどうか確認しながら取り組んでいます	身体拘束廃止委員会は年4回開催され、管理者、ケアマネ、ナース、職員代表が参加している。現在は身体拘束を要する利用者はおらず、議論は少ないが過去に対応が困難だった利用者の事例を振り返り、今後のケアの向上に活かしている。外国人職員にはスピーチロックの概念が理解しにくいので、状況に応じた適切な表現を用いながらその場で指導し、拘束をしないケアの徹底を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員と利用者様の関係はその都度声かけをしながら支援しています。対応の難しい方、聞こえの悪い方は筆談等交え、職員間で対応が適切かどうか注意しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は内部研修や職員同士の教え合うなどで介護現場で取り組んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用申し込み時に契約書等の説明を行い、理解して頂いた上で契約を行っています。改定事項がある時は、同意書の取り交わしで確認しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場にご家族が出席されたときなどはご家族の思いなど意見を聞かせていただいたり、面会時などにもご家族の思いを伺うようにしている。	家族からの「足のむくみ改善のため歩行を促してほしい」との要望に対し、散歩時は腕を組んで歩行を支援し、室内では音楽を流しながら廊下を歩く機会を設けている。外泊は不可としているが、月に1回は自宅へ帰り姉妹と食事をする機会を確保している。利用者の食事に関する希望(寿司、焼きそば、牛丼)は、イベント時などに提供し満足度向上に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ニチモ本部での館長会議では、施設の議題を提出し検討してもらっている	職員会議では、外国人職員から言葉の壁に関する悩みや利用者の薬の管理、トイレ誘導時のふらつきについての意見が出た。年に数回本部で館長会議が開かれ職員会議の意見が提出される。例えば、職員不足の意見に対して外国人職員の採用が進められたほか、畳の部屋の劣化については車椅子の影響を考慮し床材へ変更し、本社工事が施工した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人の動きが激しい割には、就業環境は現場任せになっている為、事業所内で努力しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外国の職員に対しては、日本の文化や食事等いろいろなことを業務の中で職員間で教え合っている。感染症、虐待の研修等も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ事業所との交流により情報共有しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族や関係者の方からの情報などは、職員間で共有し、利用者様へ同じ対応が出来る様に心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が不安に思うことや、要望を聞きながら、施設側でなにが出来るかを話し合えるように心掛けている。(職員会議、ケア会議等)		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族やご本人の意向、今までの習慣が継続出来る様に支援しながら、施設の生活の中で「楽しみ」を見つけ出せるよう心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	レクリエーション活動やイベント開催などを通して、一緒に楽しみを共有している、		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時はご本人の状況を報告し、ご家族からの要望や意見を頂きながら支援することを心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人のご姉妹が自宅に来られた時などは、ご自宅に外出されています。又親戚の方たち、ご近所だった方が来られることもありました。	誕生日には息子と孫が訪れ、利用者が過去に描いた絵を持参し居室に飾った。親戚やかつての近隣住民も面会に訪れる。食料品の買い物と一緒にスーパーへ出かけることもあり、ドライブでは地域の桜や長生村の畑のひまわりやコスモスを鑑賞した。散歩コースには銀杏並木があり、四季の変化を感じながら歩いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中で共通の趣味や、楽しみを見つけ共通の話題が持てるように職員が話題を提供したり支援していきます。歌を歌う、花苗の植え付けことはほぼ全員の共通の楽しみです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用が終了しても御親戚の方がカレンダー、花の球根などを届けてくださることがあります。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	契約時には本人・家族から意向や希望を聞き、生活歴・身体状況を確認すると共に、必要に応じて医療機関等より情報を取り入れ支援に繋げるうに心がけています	息子からの面会時の話に基づき、父親の癖をホーム内で職員に周知したり、血圧が高い人への対応として薄味の味噌汁を出すよう訪問診療の主治医に相談している。また、意思の表現が難しい人が職員の声に応じて笑顔を見せることで、話の内容を理解していると判断している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談・入所時に生活歴や暮らし方を聞き取り、入所時には自宅にいた時と同じように馴染みの品(まごの手、肩掛け、虫眼鏡)を持ってきて頂いたり、生活しやすい環境にしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルサイン、排便、排尿状況の把握や歌唱、描画を進めて過去と現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネを含め、本人もしくは家族を含めた担当者会議を開催しており、意向を含めた介護計画を作成している。必要に応じて、医療機関や他職種との連携で意見を取り入れと入居者のニーズの把握に努めています。	利用者の状態が安定しているため、ケアプランをそのまま継続しているケースが多い。ホームで転倒し入院した利用者については、退院してホームに戻った後の生活変化を予想し、家族の同意を得て車いす利用にケアを切り替えた事例もある。また、右手の動きが悪い利用者には、入居前の主治医からのリハビリのアドバイスを元に、ケアプランに医療保険を活用したマッサージを取り入れ、週2回訪問を受けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、申し送りノート、会議、ヒヤリハット、日々の行動などは職員間、ケアマネジャー共に情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の面会がなく、不安が見受けられるときなどは、買い物に同行しもらう、地域を車でドライブしたりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設やご家族との外出、面会、地域の催し参加してご本人の楽しみを支援することに努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に希望のかかりつけ医の受診で家族に相談、報告しながら本人、家族の意向を踏まえ受診、往診を依頼しています。定期的に、歯科医の往診も実施しています。	現在、入居前のかかりつけ医にかかっている利用者は2名おり、家族が連れて行っている。他の利用者は月2回の訪問診療の主治医に診てもらっている。訪問診療の主治医は精神科の相談も対応し、専門外の場合は紹介状を書き、家族が連れて行く形をとっている。月2回、本社所属の看護師が訪問し、看護記録に利用者の状態を記録し、何かあれば主治医に連絡するよう指示がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な看護師の訪問で状況報告、指示をもらっています。毎月2回提携医療機関の往診や、他の医療機関受診を定期的に行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のDr、看護師、ソーシャルワーカー、介護職とコミュニケーションを取って、退院後に備えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、重度化、終末期における意向の確認を書面で行っていますが、状況を見ながら、適宜、再確認を行い、終末期においてご家族の心境の変化も柔軟に受入ています。主治医に相談、対応が出来るようお願いしています。	前年度は2件の看取りがあったが、今年度はゼロである。利用者が重度化した場合、主治医の指示に従いホーム内で対応し、点滴が必要な際は訪問看護ステーションと契約して訪問看護を受ける。職員はバイタルチェックをこまめに行い、医師の指示に基づき解熱剤や痛み止めを使用する。また、看取りマニュアルに基づいて職員が支援を行うよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	判断が難しい時には、主治医に常時連絡が取れる体制になっており指示をもらっています。家族、主治医の連絡先を掲示しています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	本年度も昼間想定、夜間想定避難訓練ができたこと、外国職員も参加してもらい避難の仕方、通報訓練を確認しています。地区の消防団の方々の協力が出来る関係を築いています。	8月には夜間を想定し、12月には消防署立会いのもと日中に台所の出火を想定した避難訓練を実施した。避難はマニュアルに基づき一連の訓練を行い、水消火器での消火訓練も実施した。外国人職員もおり、ひらがなが読めるため訓練内容を理解し、誘導・連絡係を担当してもらった。また、近隣に消防団員の家族が住んでおり、大いに助かっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	前回同様、言葉がけの難しさは職員の共通な思いがあります。また外国職員の語学力にも差があります。対応が難しいときには職員を変えながら行っています。	利用者への尊重とプライバシーの確保を重視し、トイレ誘導時にはみんなの前で大きな声で言わないことを徹底している。耳の遠い人には紙にトイレと書いて誘導し、外国人職員が「トイレで座ってください」という言葉を理解してもらえなかった際は、日本人職員が代わって対応した。また、入浴時の着替え用衣類は本人のこだわりを尊重し、自ら選んでもらうようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分の着用する洋服を選んでもらう、自分のやりたい事(塗り絵、折り紙、歌、散歩)など自分で決めてもらうようにしています。またイベント食では食べたいものなど意見を聞いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は特に決めてなく、自由に過ごしていただいています。午前午後のお茶の前には体操を行っています。それ以外は自室でテレビや塗り絵や日当たりの良い場所で過ごしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援	起床時の整容は自分で出来る方以外は職員が行っています。衣類は汚れが無いよう心がけています。また外出時などは身なりを整えること。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下準備「もやしのひげ取り」などはお手伝いのできる方には参加してもらっています。自立の方1名は配膳のお手伝いをしてくれます。レクで「干し芋」作り などには男性の利用者様も参加ありました	利用者が関わったものを食事として提供することで、存在感を認める支援を行っている。もやしのひげ取りを手伝ってもらい、そのもやしを料理に出すことで利用者の自尊心を高めている。社会福祉協議会から頂いたサツマイモを使ったレクリエーションでは、役割分担をして干し芋を作り、皆で楽しんで食べた。毎日のメニューに加え、月1回はイベント食として牛丼や釜めし、巻きずし、焼きそばなどを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	宅配の栄養士が作成した献立で調理、当日の食事量や水分量はケース記録に記入し、利用者様の状態の変化に応じて食事形態も変えています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師の訪問診療を受けて助言を受けながら支援しています。口腔内の異常の場合はその都度相談指示をもらっています。自分で出来ない方には助言をもらい行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレでの排泄を促しますが、立位不安定や指示が入らない方には職員2名対応したりしています。排泄表の活用で排泄パターンの把握に役立てています。	利用者ができるだけトイレで自然な形で排泄できるよう支援している。排泄管理表を職員間で共有し、各人の排泄パターンを把握した上で誘導に努めている。また、排泄パターンの変化に気づき、排泄介護の仕方にも役立てている。車いす利用者には極力立位を保てるよう、テーブルやいすを使った立つ・座るの訓練を取り入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分チェック表・牛乳製品摂取・散歩や体操など、個々に応じて取り組んでいます。が、難しいときには主治医へ相談しお薬の調整をしてもらいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の意志を確認、体調も考慮してから行っています。定時のバイタルのほかに入浴前にもバイタル測定を行い安全を確認しています。1週間に2回のペースで入浴予定ですが、その都度臨機応変に対応しています。	入浴前には必ず血圧・体温測定を行い、体調不良者には着替えのみを行うことがある。現在、8名はシャワー浴を利用しており、1名は会話を楽しみながら入浴している。冬場には脱衣所の寒さ対策を講じ、ふる場と脱衣所の温度差をなくす配慮がされている。また、安全性を確保するため、ふる場には滑り止めと手すりが設置されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室にエアコンを完備しており、日中居室で休まれる方への対応や夜間の室温調整を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の処方箋に従い、職員は利用者のお薬の情報ファイルを確認することができ、誤薬の無いよう、個々の服用方法で対応しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設では楽しみの一つ、10時のお茶 甘い飲み物、緑茶、甘いお菓、等個々好みを聞き提供することもある。洗濯物たたみ、散歩、レクリエーション等で、気分転換の支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度もご家族の協力もあり、ご自宅への外出や、季節の花畑の見学、地区の催し物の参加が出来ました。が、全員の参加が出来ない時もありましたので、次回はボランティア様や車椅子が乗れる車の調達で利用者様が参加できるようにしたいと思えます。食材やおやつの買い物に出かけたりしましたが、その機会も増やしていきたいと思えます	車いすの利用者が多いが、6名は近隣を10分程度散歩している。月に1度ほど家族が迎えに来て自宅に帰る利用者もあり、自宅では姉妹が集まって食事をする機会を作っている。地域の農林水産祭りに外出した際、町の職員から車いすが載せられる車を借りられる提案があり、現在検討中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、対象となる利用者はいませんが、出来るだけ支援するように努めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分で番号が分かる方はお一人です、直接かけて頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冬の日には日の当たる、東側の廊下で日向ぼっこを習慣にしています。日当りの良い所で利用者同士会話をさせています。	東側の廊下には車いす5台が止められるスペースが確保されており、午前中のバイタル測定後に日向ぼっこしながらくつろぎ、会話を楽しむ姿が見られる。季節を感じられるよう、折り紙の花を壁に貼り四季の風情を取り入れている。また、口腔体操の前には必ず今日は何月何日を確認する習慣が根付いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人部屋なので、リビング、廊下等で過ごしたり、疲れた際は部屋にて休んでおられます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今迄使用していた寝具等は持ち込み、習慣で肩掛けを持参し自宅と同じように休まれています。	生活の不安を軽減するため、使い慣れた物の持ち込みを促している。持ち込まれる物には孫の手や肩掛け、虫眼鏡が含まれる。居室ではテレビを見たり昼寝をしたりしてくつろぐケースが多い。居室内は動線確保のため、ベッドまでスムーズに行けるように物をあまり置かない配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレなどの共用部分には分かるようにしています。廊下には動線を妨げるものを置かない工夫をしています。		